

2011年度私立大学図書館協会西地区部会館長懇話会

館長懇話会のテーマ設定について

1 館長懇話会の開催

- (1) 日時：2011年6月17日（金） 11：30（予定）～13：00
- (2) 場所：倉敷芸術科学大学 ヘルスピア倉敷（2F）フィットネスルーム 2
- (3) テーマ：「大学図書館における学習支援の可能性と限界」

2 テーマ設定の趣旨

大学全入時代の今日、諸大学は、その学生の実態面では学習意欲の低下や目的意識の希薄化といった状況に直面し、他面大学政策の線からは「学士課程教育の質保証」に迫られている。このような問題状況が推移する中で、大学の組織的教育力は教員の教育力・研究力等を基盤としつつも、学生の自発的な学習意欲と活発な学習活動を不可欠としていることは論を待たない。

いかにして学生の学習意欲を高め活発な学習行動を呼び起こすか。この課題は、大学の規模や学部・学科の分野構成などの諸条件に応じた各大学としての独自性を伴う課題であると同時に、個別大学の実情を超えた共通的な性質のそれでもある。

実際、各大学図書館においては、さまざまな「支援」が日常的に展開されている。その際、多くの大学における「学習支援」は、「教育支援」、もっと具体的に表現すれば「授業支援」との境界領域において行われているのではないだろうか。

そこで、思いつくままに、「学習支援」及び「授業支援」の双方に共通して必要と考えられる基礎的諸条件や各々の方法的な課題について、しかも曖昧な区分のままに例示すると以下のようなものである。

3 「学習支援」・「教育支援」のための基礎的諸条件と方法的な課題

- (1) 「学習支援」・「授業支援」において必要な基礎的諸条件
 - 1) 図書・資料など諸情報の質量両面にわたる充実
 - 2) 諸情報への自由なアクセスを保障するIT関連機器・備品の十分な配備と自由な利用環境の保持
 - 3) グループによる自由な学習のために机・椅子・パソコン等が配置された学習空間、いわゆるラーニングコモنزの確保
 - 4) レファレンス機能の拡充のための専門的職員の配置
- (2) 「学習支援」としての方法的な課題
 - 1) 「なんでも相談窓口」としてのいわゆる学生ピアサポーターの導入
 - 2) IT関連機器・備品の利用相談に関するシステム・サポーターの導入
 - 3) 可能な限り多分野にわたる学習用諸資料の充実
- (3) 「授業支援」としての方法的な課題
 - 1) 初年次教育カリキュラムの一環としての「図書・資料の検索」・「データベースの利用」などに関するガイダンス・オリエンテーションの実施

- 2) レポート・論文等のライティング・スキルやプレゼンテーション・スキルの指導・助言
- 3) 授業関係の参考書・資料の充実
- 4) キャリア形成教育支援としての「就活関係資料」の充実

しかし、上記のような基礎的諸条件の整備や具体的な課題の実現は、実際問題としてみれば、最終的にはその大半が財政的問題に帰着するという共通的な制約要因のゆえに相当に困難である。

4 「学習支援」・「授業支援」の実施にかかる制約要因（限界性）

- (1) 上記の基礎的諸条件の整備において生じる制約要因の一つは、図書・資料等の教育研究情報の整備・充実がいかに重要とはいえ、その購入経費や電子媒体資料の利用料等の経費負担にかかる制約。
- (2) グループ学習のための自由な学習空間などの確保は、図書館の新增築といった場合でない限り、そのための建物の新築を望むことは容易ではなく、結局既存の建物の範囲内でそのような空間を確保することは著しく困難という結論に帰着するが多い。
- (3) 欧米大学図書館のライブラリアンに相当するような専門的な能力を有する図書館専任職員の配置については、学生の個人学習あるいはグループ学習において専門的な知識を提供し学習者の必要を満たすという点において、その重要性は誰も否定しない。しかし、その重要性をいかに認識していようとも、中小規模の大学においては人件費負担にかかる制約。
- (4) 学部学生のレポート・論文作成などにおけるライティング・スキル等の指導のためには、学生ピアとはいっても、少なくとも大学院生レベルの技能を備えている人材を必要とする。しかし、そのための一定数の院生の確保は地方の文科系・社会科学系の私大大学院にあっては一定の予算措置がない限り困難。
- (5) また、予算措置を必要としない課題の場合にも、例えば授業担当教員との連携による「授業支援」も組織的な連携方策の構築・実施ともなると、決して容易ではない。

最後に、以上のような制約要因の克服こそ、大学図書館による組織的教育力の向上に向けた「学習支援」の基盤構築と言えよう。見方を変えれば、各大学における図書館の現実の姿は、当該大学としての図書館の「役割」に対する認識の所産とも解釈できる。しかし、この問題は、懇話会という場にして限られた時間の範囲で論議するには余りにも大きく重い問題である。

そこで、今回、図書館における「学習支援」の可能性を探るというテーマのもとで、上に例示したような「学習支援」・「授業支援」のための諸条件の整備にかかる制約要因（限界性）を認識しつつ、加盟各館における日常的な実践にみる方法・知見の交流から、その可能性の地平を探ることができればと考えている。